

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：15101

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K13032

研究課題名(和文)日本のミニマリズム研究：グローバルアートヒストリーの視座から

研究課題名(英文)The research on Minimalism in Japan: From the perspective of global art history

研究代表者

筒井 宏樹 (TSUTSUI, Hiroki)

鳥取大学・地域学部・准教授

研究者番号：40707064

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバルアートヒストリーの視座から日本のミニマリズム受容の分析を行った。なかでも鳥取の前衛芸術家集団スペース・プランを中心に扱い、野外彫刻展など同時代のミニマリズムの動向と比較しつつ、鳥取の美術史的文脈や地理的条件を踏まえて考察した。とりわけスペース・プランの活動について、ミニマリズムを鳥取というローカルな地域で集団によって実践したことに意義を見出し、ミニマリズムという動向の国内における広がりを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では日本におけるミニマリズムの受容を再検討することで、ローカルな美術運動を再発掘する契機とした。戦後日本美術が国際的に注目を集める今日、1960年代から70年代の前衛芸術の見取図に新たな視座を打ち立てることができた。本研究の成果として、期間中このテーマに関連した著書、論文を発表した。また研究成果への関心を広く喚起すべく、その一部を翻訳した冊子を関連機関に配布した。

研究成果の概要(英文)：This research analyzed the reception of Minimalism in Japan from the perspective of global art history. In particular, I focused on Tottori's avant-garde artist collective SPACE PLAN, and considered it based on Tottori's art historical contexts and geographical conditions, while comparing it with the trends of Minimalism of the same period such as the out-air sculpture exhibitions of Ube(Yamaguchi) and Suma(Kobe). Furthermore, this research found the significance of SPACE PLAN in terms of the practice of Minimalism by art collective in the local region of Tottori, and clarified the spread of Minimalism.

研究分野：芸術実践論関連

キーワード：現代美術 美術批評 ミニマリズム アート・コレクティブ 野外展示 野外彫刻 現代アート 戦後日本美術

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

現在、欧米中心主義的な歴史観の見直しによる美術史の再編が急速に進んでいる。そこで台頭してきた美術史研究の方法論がグローバルアートヒストリーであり、代表的論者のひとりジェイムズ・エルキンス(2007)は、単一のモデルではないグローバルな美術史を再構築するうえで、ローカルな芸術実践に力点を置くことを唱えている。ローカルな芸術実践に力点を置いたときに浮上するのが地域史であり、さらには地域と地域のつながりの歴史、そして人やものの移動史である。こうしたグローバルアートヒストリーの視座から戦後日本美術史を再考するならば、まず東京中心主義的な歴史観の見直しがせまられる。東京中心史観からはあまり重要視されてこなかった地域の芸術実践や人・ものの移動に注目し、東京を経由しない芸術実践の受容の伝播を辿ることで、1960～70年代の前衛芸術を多角的に捉えていく。

2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバルアートヒストリーの視座から日本のミニマリズム受容を再検討することで、1960～70年代の前衛芸術の見取図に新地平を切り拓くことである。ミニマリズムの同時代的傾向としてイタリアのアルテ・ポーヴェラとともに日本のもの派に注目が集まるものの、ミニマリズムそのものの日本における受容については十分に解明されてこなかった。本研究は、申請者が取り組んできたアメリカ前衛芸術研究および日本における前衛芸術研究の成果を基盤としてミニマリズムの多角的な日本受容を分析することで、従来の東京中心史観からは見えにくかった芸術家のネットワークや相互関係を導き出し、地域の美術を再発掘することで、戦後日本の美術史に新たな系譜を見出すことを目指す。

3. 研究の方法

本研究は、文献調査を中心に、当事者への取材、現地調査等によって進められる。具体的には下記の要素から構成される。(1)鳥取の前衛芸術家集団「スペース・プラン」について調査。(2)宇部の野外彫刻展を中心に日本の野外彫刻展についての歴史的検証。(3)ミニマリズムを含むモダニズムの言説の理論的研究。

4. 研究成果

本研究は、以上の目的および方法に基づいて次の3つの点を重視して進めた。第一にアメリカで発祥したミニマリズムをグローバルアートヒストリーの視座から捉え直すことで、その広がりや日本の美術家との相互関係を解明すること。第二に東京中心史観とは異なる伝播を辿ることで、日本においてあまり定着しなかったとされるミニマリズムの影響を明らかにし、1960年代から1970年代の日本美術をより総合的に捉えること。第三にミニマリズム受容という観点から同時代的なネットワークを明らかにし、地方の芸術実践を歴史的に価値付けることである。その結果、下記のような研究成果が得られた。

(1) 鳥取というローカルな地域で1968年から1977年まで活動した前衛芸術家集団「スペース・プラン」について調査し、その成果は『スペース・プラン:鳥取の前衛芸術家集団1968-1977』(アートダイバー、2019年)の刊行として結実した。中心メンバーである谷口俊、フナイタケヒコ、山田健朗に取材し、京都在住の美術家・福嶋敬恭との関係、そして具体美術協会という着想源を解明した。すなわち、ミニマリズムの代表作家であるドナルド・ジャッ

ドとも交流した鳥取出身で京都府在住の美術家・福嶋敬恭を通じて、スペース・プランがアメリカの最新の美術動向であるミニマリズムをいち早く受容したこと、その一方で関西の前衛芸術家集団「具体美術協会」の拠点であるグタイピナコテカ(大阪)を訪問し、さらに美術雑誌を通じてその野外展示を知るなど具体美術協会を彼らのもう一つの着想源としていたことである。

以上から、スペース・プランがアメリカのミニマリズムというグローバルなネットワークを形成しつつ、具体美術協会以来の野外展示という日本の文脈にも位置付けられることを明らかにした点が本研究の意義である。本研究の成果を広く周知するべく『スペース・プラン:鳥取の前衛芸術家集団 1968-1977』所収の論文を英語および韓国語に翻訳した冊子も作成した。

また、1978年創刊のタウン誌『スペース』を調査することで、スペース・プランのメンバーが70年代末に鳥取市で野外彫刻による街づくりを提案していたことが明らかとなった。その調査の一部を論文「タウン誌『スペース』を中心に:ローカルメディアと地域美術」(『まちの本 スペース』とその時代)小取舍、2022年)として発表した。

(2) 日本における野外彫刻展の歴史を検証した。1960年代後半、宇部や神戸で開催された野外彫刻展は、ミニマリズムの彫刻が発表される舞台となっていた。特に野外展示の代表的事例である1961年から開始された宇部市野外彫刻展(現代日本美術展、現・UBE ビエンナーレ)について調査し、地元の市民運動家・上田芳江と当時神奈川県立美術館副館長で野外彫刻展プロモーターであった土方定一の同展の設立における役割を明らかにした。両者は共に1950年代にヨーロッパ旅行を経験しており、街中の公園等の環境の中に溶け込むように彫刻が設置されているのを目撃していたこともあって、野外彫刻に対する理念において共通点があったのである(「宇部の野外彫刻とまちづくり:上田芳江と土方定一の役割」『アートがひらく地域のこれから』ミネルヴァ書房、2020年)。

(3) ミニマリズムを含むモダニズムの言説の理論的考察を行った。具体的にはクレメント・グリーンバーグ、ドナルド・ジャッド、草間彌生、ミニマリズム、コンセプチュアル・アートなどの言説を調査し、さらに戦後日本の美術史におけるそれらの言説の理論的受容の系譜を見出していく作業に取り組んだ。その成果として、美術家・中ザワヒデキをアメリカ・モダニズムの言説から位置付ける論文「ヒロ・ヤマガタ問題、方法主義、AI 美芸研」(『S/N: S氏がもしAI作曲家に代作させていたとしたら』人工知能美学芸術研究会、2021年)、アメリカのミニマリズムの形成に影響を与えた美術批評家クレメント・グリーンバーグのモダニズムの言説研究に取り組んだ論文「クレメント・グリーンバーグの「ゴシック」」等がある。

以上のように本研究の主要な成果は、いくつかの著書や論文として公表することができた。また、その成果への関心を喚起するべく、一部を翻訳した冊子を作成し、配布した。鳥取というローカルな地域の芸術実践を掘り起こすことで、日本のミニマリズム受容のネットワークにおける広がりをはっきりと明らかにしたことは、研究課題の目的を一定程度達成することができたといえる。また、宇部の野外彫刻展の設立経緯を分析し、その理念を明確にしたこと、そしてモダニズム言説の理論的考察を行ったことは、関連する問題設定を今後さらに展開させることへの準備となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 筒井宏樹	4. 巻 2
2. 論文標題 平成のはじめに東京で何が起きていたのか：90年代美術論（前編）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 レビューとレポート	6. 最初と最後の頁 ウェブメディア
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井宏樹	4. 巻 5
2. 論文標題 マイケル・フリードを読む 『没入と演劇性 ディドロの時代の絵画と観者』をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コメント通信	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井宏樹	4. 巻 71(1076)
2. 論文標題 「美術批評家」絶滅危機の時代	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 86-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井宏樹	4. 巻 71(1078)
2. 論文標題 ARTIST PICK UP 坂本夏子 偶然の器の重なりを「尺度」にして絵と、世界と、自分との距離を測り直す	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 120-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 筒井宏樹	4. 巻 74(1093)
2. 論文標題 美術批評の地殻変動：冷戦崩壊後あるいは平成のはじまり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 196-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計7件

1. 著者名 きりとりめでる、紺野優希、筒井宏樹編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小取舎	5. 総ページ数 148
3. 書名 芸術と文化 鳥取2021	

1. 著者名 筒井宏樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人工知能美学芸術研究会	5. 総ページ数 448
3. 書名 S/N：S氏がもしAI作曲家に代作させていたとしたら（人工知能美学芸術研究会（AI美芸研）編）（〔担当論文〕ヒロ・ヤマガタ問題、方法主義、AI美芸研）	

1. 著者名 筒井宏樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 アートダイバー	5. 総ページ数 95
3. 書名 スペース・プラン：鳥取の前衛芸術家集団1968-1977	

1. 著者名 筒井宏樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 292
3. 書名 アートがひらく地域のこれから (野田邦弘、小泉元宏、竹内潔、家中茂編) ([担当論文] 第9章 宇部の 野外彫刻とまちづくり: 上田芳江と土方定一の役割)	

1. 著者名 筒井宏樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小取舍	5. 総ページ数 240
3. 書名 街を見る方法 『まちの本 スペース』とその時代 (『スペース』研究会 (小笠原拓、岡村知子、筒井 宏樹、木野彩子) 編) ([担当論文] 「タウン誌『まちの本 スペース』を中心に: ローカルメディアと地 域美術」)	

1. 著者名 筒井宏樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 書肆九十九	5. 総ページ数 608
3. 書名 彫刻2 彫刻、死語/新しい彫刻 (小田原のどか編) ([担当論文] 「クレメント・グリーンバーグの 「ゴシック」」)	

1. 著者名 編者: 筒井宏樹 翻訳: 紺野優希	4. 発行年 2022年
2. 出版社 鳥取大学地域学部筒井宏樹研究室	5. 総ページ数 16
3. 書名 スペース・プラン 鳥取の前衛芸術家集団1968-1977 韓国語版	

[産業財産権]

[その他]

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------